

《担当者名》教授 / 小島 弘幸 教授 / 浜上 尚也 准教授 / 小林 大祐

【概要】

食品による生体機能修飾、食品と薬物の相互作用に関する講義を通して、予防医学における食品の有用性に関する応用的知識を修得する。

- ・食品成分が生体に及ぼす影響を代謝と関連づけながら分子レベルで学び、あわせて生活習慣病の原因となりやすい食生活の偏りを、糖質、脂質、タンパク質の代謝機構から理解する。
- ・薬物との相互作用を考慮した栄養指導、科学的根拠に基づいた薬学の立場からの栄養指導による生活改善法について、応用的知識を修得する。

【学修目標】

- ・衛生化学、食品衛生学的知識ばかりでなく、健康や疾病と食品とのかかわりの観点から総合的に考察し、概要を説明できる。
- ・健康と環境を予防薬学の観点から考察し、健康の維持・増進および疾病の予測・評価・判断に必要な高度な理論を理解し、実践できる。
- ・疾病予防を目的とした医療をセルフメディケーションの立場から理解し、科学的根拠に基づく積極的な生活習慣改善法を構築できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 2	食物摂取の意義 食品の機能	食物摂取による生体影響を栄養学的に概説できる。 食品の一次～三次機能について概説し、対応する主な食品成分の機能を概説できる。	浜上 尚也 小林 大祐
3 ) 4	食品の機能成分	三次機能を有する食品成分で、科学的根拠に基づく有効性が確認されている代表的なものを列挙し、概説できる。	浜上 尚也 小林 大祐
5 ) 6	栄養素の過不足による疾病	栄養素の過不足と疾病の関係について例を挙げて説明できる。	浜上 尚也 小林 大祐
7	食事摂取基準	日本における栄養摂取の現状と問題点を説明できる。	浜上 尚也 小林 大祐
8 ) 9	環境と健康	異物の体内動態、異物代謝酵素とトランスポーター、化学物質の毒性発現機構について概説できる。	小島 弘幸
10 ) 11	食品と健康	健康食品・メディカルサプリメントのエビデンス、病態と成分の相互作用について概説できる。	小島 弘幸
12 ) 13	生活習慣病の分子栄養学	生活習慣病の発症の分子メカニズムに関連した原著論文を読み、食品成分を利用した生活習慣病予防法の確立について議論する。 【PBL・SGD】	小島 弘幸
14 ) 15	予防栄養学の個別化医療への応用	トキシコゲノミクス、ニュートリゲノミクス、遺伝子レベルによる毒性予測に関連した原著論文を読み、個別化医療の現状と展開について議論する。 【PBL・SGD】	小島 弘幸

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション 20%、関連分野の学術論文1編を参考として作成された課題レポート80% により評価する。

**【教科書】**

なし

**【参考書】**

必要に応じてレジユメを配布

**【学修の準備】**

関連分野の基礎的知識を確認し、最新の論文の内容を理解できるよう準備する。